

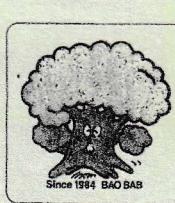
KSKQ バオバブネットワーク通信

VOL20

通信VOL20ご支援ありがとうございます
ございます！！

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

KSKQ バオバブネットワーク通信 VOL16

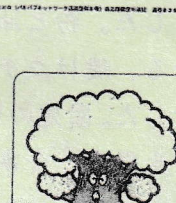


KSKQ バオバブネットワーク通信 VOL16

今年もよろしくお付き合い！

ともに地域で いきいきと生きることの実現を

KSKQ バオバブネットワーク通信 VOL19



KSKQ バオバブネットワーク通信 VOL19

今年もよろしくお付き合い！

ともに地域で いきいきと生きることの実現を

ともに地域で いきいきと生きることの実現を



えるで



みつばち保育園でピザづくり

12月、みつばち保育園様よりご招待頂き、えるでのメンバーさん数名と、保育園の先生、園児の方と共に松原で作った材料を使用した、手作りピザ体験に参加させて頂きました。粉と油を一生懸命こねて、好きな具を乗せる、焼けたチーズの香りが園一杯に広がっていました。園児の皆さんは、来られた沢山のお客様に一生懸命、食事を運んだり、一緒に食事をしたり、食堂からはなんとも和やかで楽しい空気が広がっていました。1から自分達の手で作ったピザの味は格別で、メンバーの皆さんはもちろん、おかわりされていました！貴重な体験ありがとうございました！！



交流会



地域交流の一環として、天美南小学校の3年生と天美北小学校の6年生の子供たちが見学に来られました。＼(o)/

えるでの活動を案内させて頂いた後、天美南小学校の子供たちはリコーダーを披露してくださいました！！

天美北小学校の子供達はクリスマス前ということでメンバーと一緒にツリーを創作出来るよう活動を考えて来て下さいました！一緒に完成させたツリーはクリスマス会で飾りました＼(o)/

クリスマス会

今回も布忍小学校のランチルームをお借りして、メンバーさんにとっての一大イベント、クリスマス会を無事に行うことが出来ました。テルミンという楽器を使った森田先生の演奏に始まり、大クイズ大会、メンバーさん同士のクリスマスカード交換、ボランティアの方をはじめ、房本理事長お手製の美味しい昼食に、デザート。最後はお待ちかねのサンタの登場でプレゼントタイム♪メンバーさんの笑顔に溢れる楽しい会となりました。これも日頃からえるでを支えてくださるご家族や、ボランティアの方々あっての事だと思っています。ありがとうございます！！



新年会



何が出るかな？

TT 兄弟？

1月12日（土）総合福祉会館 3Fをお借りして新年会を行いました。

房本理事長の挨拶から始まり素晴らしいマジックショーやカラオケ大会がありメンバー・スタッフともに盛り上がりました♪昼食ではちらし寿司や唐揚げなどのオードブルがあり皆さん喜ばれていました(〇〇)

新年最初の行事として笑顔いっぱい溢れ楽しい時間を過ごすことが出来ました(≧▽≦)

本年も、えるでメンバー・職員で様々な活動や行事を共に考え日々楽しめるよう過ごし、より良い支援を心掛けますので宜しくお願いいたします。

新しい職員から一言

1月から入社しまして2週間が経ちました。初めての職業だったので、不安でいっぱいでしたが、メンバーさんとも仲良くでき、とてもやりがいのあるお仕事だと思います。まだ、分からない所とかあると思いますが、頑張りますのでよろしくお願いいたします。

上神 夏生

第2えるでコーナー



明けまして
おめでとう
ございます

第2えるで 2018年 行事報告

新しい年を迎え、第2えるで開所3年目となる2019年がスタートしました。年末年始の休みが明け、久しぶりの第2えるでの開所でしたが、寒さに負けず元気に来所してくださったメンバーさんの姿をとでも嬉しく思います。第2えるででは、年末年始の行事に触れたり、冬ならではのイベントを楽しんだりして、いつもと違った経験をしたメンバーさんも多くいたと思います。2019年も一人一人のメンバーさんが、より第2えるでを楽しみ、地域生活において自分の力を発揮しながら充実した日々を過ごすことができるよう支援していきたいと思っています。今年も第2えるでのメンバー・職員一同をよろしくお願いいたします。

- ・ 4月28日(水) 大泉緑地ピクニック
- ・ 5月 3日(木) 石川こいのぼり
- ・ 6月16日(土) ファミリー交流会
- ・ 7月 7日(土) ともだちの輪
- ・ 7月14日(土) ねっとフェスタ
- ・ 9月15日(土) みんなのWA
- ・ 10月 6日(土) レストランで外食
- ・ 10月19日(金) 伊勢一泊旅行
- ・ 10月20日(土) 伊勢一泊旅行
- ・ 11月 4日(日) ふれあい交流会
- ・ 11月23日(金) BBQ 秋の味覚祭り
- ・ 12月22日(土) クリスマス会
- ・ 12月29日(土) 大掃除・忘年会

今年もよろしくお願いします!



第2えるでアルミ缶回収

いつもリサイクル活動にご協力頂きありがとうございます。2018年は109,980円のアルミ缶納品額がありました。この納品額があったのも地域の方々のご協力あってのことです。第2えるでのメンバー、スタッフ共々感謝しております。来年度もまた、リサイクル活動のご協力のほど、よろしくお願いいたします。



第2えるでの新年会&芋煮会

1月4日(木)には、第2えるでの新年会を「大地の恵み」にて行いました。新年会では美味しいランチバイキングをいただきながら、楽しいひと時を過ごしました。また、5日(金)には第2えるで駐車場にて芋煮会を開催しました。えるで初の芋煮会でしたが、しょうゆベースと味噌ベースの具材たっぷりの芋煮で体の芯から温まりました。



第2えるでのボランティア

第2えるででは、約10名のボランティアさんに来ていただいています。ボランティアさんには、日常の支援のサポート以外にも、デイ活動のひとつである河内音頭や、メンバーさんのクラブ活動等(スポーツクラブ、おはなしクラブ、おでかけクラブ等)にご協力いただいています。

ボランティアよりひと言

メンバーの皆さんが、一生懸命に生活している姿に日々とても感動しています。

第2えるでは、メンバーさんと一緒に本読みしたり、パソコンや日記をしたり、音楽やDVDを見聞きしながら、いつも元気をもらっています。

(井上)

第2えるでの皆さん、週一回の訪問ですが、いつも仲良くしてくれてありがとうございます！

皆さんと太鼓や音楽を通して、心が繋がっていったら嬉しいです。今年もいい時間が作れるように頑張ります。よろしくお願いします。(盛田)

私はボランティアをしているというより、メンバーさん達と一緒に作業をしたり、買い物に出たりしている感じです。みんなと一緒にいただくお昼ご飯も凄く美味しいです。これからもよろしくお願いします。(山内)



第2えるで ボランティアを募集!!

現在、第2えるでではボランティアを募集しています。メンバーさんの日常生活をフォローしつつ、自分の趣味なども活かして、充実した時間を過ごしてみませんか？小さな出会いやきっかけでかけがえのない「やりがい」に出会えるかもしれません。興味のある方は、いつでもお気軽にお問合せください。

【第2えるで】

〒580-0023 松原市南新町 3-1-14

TEL:072-349-8611

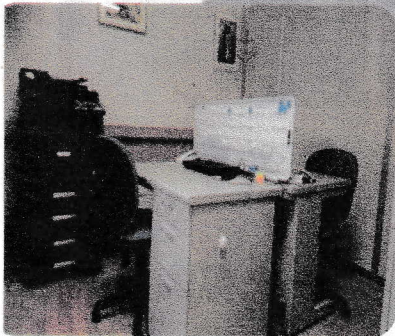
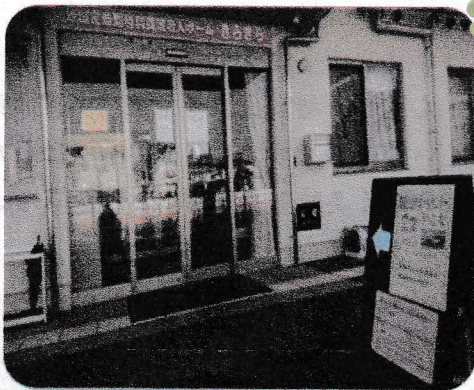
地域生活サポートセンターいこな

昨年10月6日(土)にいこなの事務所が移転してから、3ヶ月が経ちました。

地域密着型特別養護老人ホーム「きらきら」1階で移転後しばらくは関係者の皆様やご利用者様にはご迷惑をおかけしたと思いますが、少しずつ移転後の場所も定着してきていることかと思えます。

地域の方の相談や、発達障がいに関する相談なども増えています。

お近くにきた際は、是非！寄ってくださいね。



「いこなの活動」

障がいのある方が安心して日常生活または社会生活が送れるように、障がいのある方の地域生活に関する様々な問題について障がいのある方やご家族、関係者の方などからの相談に応じ、必要な情報の提供、障害福祉サービスの利用支援などを行っています。

いこなでは地域の方からの相談や、また発達障がいの方、その家族さんから様々な相談を頂いています。

例えば・・・

- ・仕事がしたいけど、どこに相談に行ったら良いか分からない。
- ・ご家族の高齢に伴い、障がいを持つ子どもの支援をする事が体力的にもしんどくなっている。
- ・グループホームや入所施設なども考えているけど、どうしたら良いか分からない 等々

「職員研修」

いこなでは、他法人や機関が開催する研修会に参加し、スキルアップを目指します。

また、法人内職員向けの研修などの企画にも積極的に取り組んでいます。

「なごみざくらの会」

いこなでは、本人活動支援を行っています。松原市で暮らす、障がいを持つ仲間との交流や仲間づくりができる場を提供しています。今では、19名の登録メンバーに加え参加者が協力しあいながら、楽しく活動を行っています。

〈年間予定〉

- ・4/8(日) お花見(吉野山)
- ・5/13(日) 会議
- ・6/10(日) 外出(京都鉄道博物館)
- ・8/12(日) ゲーム・創作活動
- ・10/14(日) 勉強会(交通ルールについて)
- ・10月 ボッチャ大会
- ・12/15(土) 交流会(クリスマスコンサート)
- ・2/10(日) 鍋パーティー
- ・3/10(日) 総会



人権三法を
社会にひろげよう☆

バオバブとみんなのWA2019

2019年3月21日(木・祝)

11:00~14:00

はーとビューー (松原市人権交流センター)

出店・イベントの参加
ボランティアご協力
大・大・大募集集中!



後援 松原市 (予定) 松原市教育委員会 (予定)
松原市社会福祉協議会 (予定)
共催 NPO法人障がい者支援ねっとまつばら
主催 バオバブとみんなのWA実行委員会
社会福祉法人バオバブ福祉会
お問い合わせ バオバブ福祉会えるで
松原市田井城6-328-2 TEL 072-332-0987

お車でのご来場はご遠慮ください。

人権三法ってなに? 2016年に差別を解消するための3つの法律が施行されました。

・障害者差別解消法 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

すべての国民が障がいの有無によって分け隔てることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現をめざす法律です

・部落差別解消推進法 部落差別の解消の推進に関する法律

現在もなお部落差別が存在し、情報化の進展に伴ってその状況に変化が生じていることを踏まえたうえで「部落差別は許されないもの」という認識のもと、部落差別のない社会の実現をめざす法律です

・ヘイトスピーチ対策法 日本に住居している外国出身者に対する不当な差別的言動の解消に取り組む法律

日本に住む日本以外の出身者や子孫に対する差別意識を助長・誘発し、地域社会から排斥することを扇動するような言動の解消をめざす法律です。

この人権三法が広く社会に認知され、ここ松原において、

人権を守る街づくりをすすめていきましょう。



バオバブとみんなのWA2019 2019年3月21日(木・祝)

11:00 みんなのWA オープニング

いろいろ模擬店

焼きそば イカ焼き レザークラフト体験 ゲームコーナー 他

いろいろステージイベント

和太鼓 バンド演奏 マジック ダンスパフォーマンス 手話歌披露 他

いろいろ活動紹介・展示

識字50年のあゆみ バオバブのとりのくみ 他

14:00 みんなのWA フィナーレ

バオバブとみんなのWA2019を応援してくださっている実行委員会のみなさん

- ・部落解放同盟大阪府連合松原支部 ・更池あったかサークル ・松原更池識字学校
- ・(社福)松風福社会 ・更池自治振興会 ・つるかめ苑 ・教育守る会
- ・松原市防犯協議会新町支部 ・松原退職教職員の会 ・松原市職員組合
- ・NPO法人介護支援の会松原ファミリー

たくさんの皆様のご協力のもと、みんなのWAは開催いたします。ありがとうございます

バオバブ後援会ニュース

新しい年2019年を迎え、早や1ヶ月がたちました。

後援会では、新年から1/3のつなぎ隊活動、1/4のランチバイキング、1/5の第2えるで芋煮会、1/12のえるで新年会にボランティア参加し、メンバーさん、スタッフの皆さんと楽しい一日を過ごしました。

本年も本会へのご入会をお願いするとともに、皆さんから色々なご意見やアイデアをいただきながら、後援会として楽しく活動してまいります。本年も、ご支援ご協力のほどよろしく願います。



今年度の後援会への入会ありがとうございました

1/22現在で、個人加入者が285名、団体加入が9件です。ご入会いただき誠にありがとうございました。会費については、「バオバブとみんなのWA」の取り組みや、地域活動をはじめとした諸活動に使わせていただいております。詳細は、次号のねっとわーく通信で決算報告としてお知らせさせていただきます。

秋の地域活動ボランティアありがとうございました

10/27の松高祭で始まった秋の地域活動や中学校区フェスタに、のべ39人の後援会員（ボランティア）や、のべ21人のバオバブファミリーの皆さん、そしてえるでメンバー、スタッフの皆さんと参加しました。イカ焼きの販売やレザークラフト体験など、地域の皆さんに楽しんでいただき、無事終わることができました。ありがとうございました。



3.21「バオバブとみんなのWA2019」を開催します

今回は「人権三法を社会にひろげよう！」をテーマで開催し、後援会としても、最大限の支援と協力をしていきたいと思っておりますので、会員皆様のご協力をお願いいたします。

ボランティアとして、

①前日・当日の準備、片づけ（会場設定、テント張り、開催の準備など）

②当日の出店のお手伝い、メンバーさんの付き添いなど
後援会からはまた、“イカ焼き”で出店します(°o°)

ボランティア大募集してまーす！！皆さん、さそい合っ来てくださーい！！

よろしくお願いしま〜す。

ボランティアをご希望される方は、下記までご連絡お願いいたします。



バオバブ福祉会後援会（布忍事務所）

松原市東新町4-105-68 （えるでヘルパーステーション内）

事務局tel 072-332-0999

法人本部コーナー

12月8日(金)第76回社会福祉法人バオバブ福祉会理事会が開催され、Ⅰ新規事業の進展状況と今後について、Ⅱ検討プロジェクトチーム結成について、Ⅲグループ・ホーム建設用地内家屋等の解体工事についてが承認されました。

通信では、その議論の重要な項目について後援者・支援者の皆様にお伝えします。

1. 新規事業の進展状況と今後について

1. いこな・移転事業について

10月31日・予算内で終了

○女子ホーム3名の入居完了

○いこなの家賃については、

10月～3月までは建築費に組込

当初予算 2,480,000 円 執行額 2,266,317 円

家賃 300,000 円

2. グループホーム建設に向けて

0) 私たちの周りの状況

○他地域では、建設反対の動き＝逆風にさらされている

例：八尾ポポロの会ホーム断念

○地震・台風の影響により、建設業界の混乱(木造注文増)

1) 進行状況

○用地取得について・・・旧山本・旧安田・旧安積邸契約・買収完了

2. 建設計画の見直し

1) 見直しの方向性

①用地が広がった関係により、建設計画見直し必要あり

②男子ホームに(女子)ショート併設可能
⇒福祉指導課との協議を経て

③5年後を見越した総合計画

2) 見直しの結論

・ホーム入所メンバー不足→他事業所から2名以内の受け入れ

・緊急対応ショート施設の建設

・建設業界の状況を受けて入札業者の拡大を目指す取り組み

・建設時期を4月 完成・開所を10月に

・建設用地の拡大のため担保価値上昇している→銀行等金融機関との再交渉へ

・将来の総合計画策定の必要性

3. 検討プロジェクトチーム結成について

1) 提案理由

○保護者、メンバー、理事会構成メンバー、後援者の高齢化に対応し、福祉切り捨ての動きに抗して、メンバーの願いや地域社会の要請を実現するために、5年後のバオバブ福祉会のあり方を関係者で検討し、法人経営に反映させる。

2) 総合計画策定に向けての諸課題

①ヘルパーステーション

建物の老朽化により建て直しの時期を迎えている

②「えるで」の特殊性

国庫補助金活用施設であり、購入価格高さが、売却等の方向性を阻害している。
外壁修繕必要性あり

③法人本部の設置位置

事業所が増えている現状を踏まえて、えるで内でいいのか

④ホーム空・風

終の住処として、ターミナルケア体制構築の必要性

⑤緊急ショート

新ホームでカバーする方向で検討する

⑥いこな

サービスの多面性・緊急対応の増加により、職員数を含めた今後の経営あり方の検討

⑥時代・社会の要請

日中支援ホーム・重度児童Day等社会の要請についてどうこたえるか

3) プロジェクトチームの構成について

①組織

理事会1名 評議員会1名 新ホーム
利用者代表1名 各事業所代表1名
で構成する。

②会議期間

2018年12月～19年5月31日

④ グループ・ホーム建設用地内家屋等の解体工事について

1) 提案理由

- ①当初予算340万円以内であることを条件に業者に見積もり書を依頼。株式会社日商と株式会社アイエスの2社が提出があった。
- ②見積もり価格が低く、「みんなのWAパート3」の賛助企業である株式会社池上環境開発の関連会社であることを考慮して、株式会社アイエスと随意契約を締結する。

尚、解体工事实施時期2019年1月15日～19日とする。

- ③解体工事後の仮柵工事について
本法人協力企業である株式会社西山金物に依頼する。

⑤ 取得建設用地一括登記について

1) 提案理由

- ①公簿上の取引であるために、実測が必要である。
- ②新ホーム建設予定地(11月15日取得済)については、4筆に分かれている。4筆として基本財産登記は可能であるが、担保価値が決定しにくい。
- ③施設の安全確保のために、取得用地の西側に4, 5mの道路を確保し、公衆道路として登記し、地域住民と共用とする。
- ③実測後2筆(公衆道路・建設用地)登記し、基本財産登記後、金融機関に担保の一部として提供していく。

2) 基本財産登記の時期について

- ・上記の事由により、基本財産登記時期に1月15日以降の開催予定の理事会・評議員会後に行う。

法人本部よりのお願い

理事会・評議員会において、「ホーム(東風)」の開設については、民間資本の活用が決定され、解体整地後、市の福祉指導課との協議を重ね金融機関(銀行等)と正式な契約を結ぶことになります。

当初予定していた計画の見直しをはかり、1階は男子ホームと緊急ショート併設ホーム、2階は「ヘルパーステーション」「いこな」「後援会」等の事務所が入る予定になっています。

今回、法人自己資金や保護者から借入金の活用をはかりますが、施設整備については相当な負担が予想されます。

2億円強の負債をかかえる法人にとって、非常に負担が大きいものになっています。皆様方のご厚意におすがりし、期間限定で整備募金をお願いすることを関係者で決定しました。

今年・来年度も、施設整備募金募集を継続します。

期 間	2019年1月1日～2019年10月31日
目標金額	800万円 (1口2,000円×4,000口)

ご寄付いただくと、社会福祉法人への寄付として税金控除の対象になります

(同封の振込用紙をご利用ください。)

担当窓口

(社福) バオバブ福祉会

法人本部・会計担当(藤田)

みんなで考えようコーナーNO17

映画「こんな夜更けにバナナかよ」から、何を学ぶべきか

—自分のことを自分でできない生き方には尊厳がないのか?—

映画「こんな夜更けにバナナかよ」がヒットしていると聞いて、観てきました。映画の原作は『こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』（2003年発行）で、著者は北海道に拠点置くノンフィクション作家渡辺一史さんです。全身に筋力が徐々に衰えていく進行性筋ジストロフィーの鹿野さん（故人）の生活とボランティアたちの交流、青い芝の会や札幌いちご会（小山内美智子代表）との共闘等を描いた546ページにもなる長編のノンフィクションです。

障がい者の「自立の意味」を社会に問うた作品として、地域生活にこだわる私たちの間では評判の作品であり、一方で批判も多い作品でした。商業映画で、本当に描き切れるか？という疑問を持ちながらも、映画館を訪れました。そして、素直に感動し、自立の意味を改めて問うことの必要を考えさせられました。

映画では、大泉洋が演じる主人公がボランティアを探して地域で生きていくことの大変さと「その意味」と人工呼吸器を着けながらも明るく、わがまま（？）とも言えるボランティアへの要求、それが、ボランティアの心を動かす、という本の一部であるが描かれていました。詳しくは、映画および作品（文春文庫880円）および映画ノベライズ（文春文庫600円）をお読みください。ここでは、著者の渡辺一史さんの取材動機、取材後の心境の変化等を綴った文章を紹介し、社会の自立観の誤りを考えていきたいと思います

本のタイトルが風変わりなので、いったい何の本なのかと聞かれることも多いが、「筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち」という副題があるのとおり、進行性筋ジストロフィーという難病を抱えた鹿野靖明（しかの・やすあき）さんと、鹿野さんを24時間体制でローテーションを組んで支えるボランティアたちとの交流を、私が取材して書いたノンフィクションである。

筋ジストロフィーは、全身の筋力が徐々に衰えていく難病で、今なお治療法が解明されていない。筋ジス患者の多くが、一生を施設や病院で終えるケースが多い中、してかし、鹿野さんは、どんなに障害が重くても「地域で普通に生活したい」という主張を貫いた人だった。

とはいえ、「普通に生活したい」といっても、手が動かない、足も動かない鹿野さんは、介助者なしに生きていくことができない。おまけに、30代の頃から呼吸筋の低下にともない、人工呼吸器という器具を装着することを余儀なくされた。

この器具を装着すると、呼吸器と気管の間に不定期に痰（たん）が詰まるようになり、その詰まった痰を、そばにいる介助者が「吸引器」という機械を使って取り除かなければ窒息してしまうおそれがある。そんな大変な困難も背負っていた。

とにかく1日24時間、つねに他人がそばにいないと生きていけないという境遇を鹿野さんは生きていた。

たとえば、鹿野さんは喫煙者であった。もしあなたが障害者を介助をするボランティアだったとしたら、障害者が「タバコを吸いたい」と言い出したとき、どんな態度でそれを受け止めるだろうか。「タバコは体に悪いから、やめなさい」と言うだろうか。あるいは、「世の中には嫌煙権というものもあるのだし、タバコは周囲の人の健康にも害を与えるから吸うべきではない」

とお説教の一つでも垂れるのが、介助者の取るべき正しい態度なのだろうか？

ともあれ、鹿野さんは、病いや障害に攻め込まれば攻め込まれるほど、異様に「しぶとさ」を増していった。どんな困難に見舞われようと、どこかに可能性があるはずだと信じて、「こっちはどうだ、あっちはどうだ」と、もがき続ける。

そして、小さな可能性をこじ開けるようにして、どこまでも生きていく。メゲない。あきらめない。それが、鹿野さんの「強さ」であり、「たくましさ」の根源だった。

鹿野さんは、強い面も弱い面も、ずるい面もみにくい面も、すべてを人目に晒（さら）すことでしか生きていけない。ボランティアはボランティアで、そんな鹿野さんとの格闘を重ねながら、気づけば自らの生き方を見つめ直し、人間的にも大きな影響を受けてゆくのだった。

結局、自分の生きる意味や役割を与えてくれるのは、深く関わった他者でしかない。「自分って何だろう？」と自分一人で考えていても結論は出ない。

鹿野さんとともに過ごし、格闘した日々は、そのことを肌身で実感させてくれる歳月でもあった。

普段の鹿野さんは、自分を介助するための「研修」を新人ボランティアたちにビシビシ行い、頼りないボランティアには「帰れ！」と一喝した。「…感謝されこそすれ、まさか怒られるなんて」というのが、ごく普通のボランティアの感覚だろう。

あるいは、障害者という存在を「弱々しい存在」「保護されるべき存在」と思い込んでいる人にとっては、その「ねじれ」現象に思わず悩んでしまうかもしれない。私も当初はそうだった。

鹿野さんは、そんな難問をごくあっさりと私たちに突きつけるような「障害者」だった

この本の取材を始めるまで、私は「福祉」とか「障害」にはまったく関心のない人間だった。せいぜい「障害者」や「ボランティア」の話といえば、『24時間テレビ 愛は地球を救う』のような“美談”とか“感動ドラマ”のイメージしかなかった。

ところが、取材を始めるうちに、そうしたイメージがこるとくくつがえされていった。その最たるものが、主人公である鹿野さんの強烈なキャラクターだった。鹿野さんほど“美談”の似合わない障害者はいない。超ワガママで目立ちたがり屋。介助者に「あれしろ、これしろ」を容赦なく要求する一方で、「もうダメだ。死にたい」と言い出して、周囲を慌てさせることもしばしばだった。

また、普通、カラダが動かないと、まわりの人に対して、「お世話をかけて」「申し訳ない」といった卑屈な気持ちになりがちだが、鹿野さんにはそういうところがまったくない。むしろ、「障害が重いこと」を逆手にとって威張っているような雰囲気さえあった。

『こんな夜更けにバナナかよ』という奇妙なタイトルに「バナナを食す」という意味を出している。この本は、深夜に介助が入り込んでいたという学生ボランティアのつぶやきを容赦なく要求して倒れ、いつしか怒りが消え去ったというエピソードをもとにしている。

鹿野さんとボランティアとの間には、そうした“葛藤”が尽きなかった。私が、この本の取材に取り組もうと思ったのも、一つのきっかけは、「ボランティア」に対する興味からだった。そもそもボランティアを好きこのんでボランティアしたいのだから」という素朴な疑問があったからだ。

私はこの本を書く過程で、何十人ものボランティアにインタビューをすることになったが、たとえば、こんな学生ボランティアがいた。大学に入学したものの、大学の授業はつまらないし、自分はどうして大学なんているところに入ったんだろう、自分の「生きる意味」とはいったい何だろう、というような問いにつまずいてしまう学生である。そんなとき、大学の掲示板に貼られていた「ボランティア募集」のチラシを見て、「これだ!」と思ってやってくる。

鹿野さんのところには、他にも、マージャン三昧の怠惰な生活を「なんとかしたい」と思っている学生や、あるいは、冷え切った夫婦関係の末に、「夫にとって私って何?」といった根源的な不安を抱えているような主婦もいた。

そして、「なぜボランティアをするの

か?」という問いを重ねる途上で、一人の女性ボランティアがつぶやいた言葉にはドキリとさせられた。

《一人の不幸な人間は、もう一人の不幸な人間を見つけて幸せになる》という言葉だ。

結局、この言葉を私なりにどう受け止め、この言葉に対してどんな答えを用意するのかが、この本を書く上での最大の“山場”ともなった。

ボランティアとは、ヒマと余裕があるからするものではない、という事実を知った。どちらが「障害者」でどちらが「健常者」か私が「障害者介助の現場」で目にしたのは、人と人が支え合う“美談”でもなければ、善意と共感が渦巻く“感動ドラマ”でもなかった。むしろ、そこは、幸・不幸のパイをめぐる、食うか食われるかのシビアな争いが繰り広げられる戦場であった。

こんな夜更けにバナナかよ

主演 大泉洋

笑い涙の映画化!

12.28(金) ROADSHOW

鹿野さんのわがままの理由を知ってほしい!

大泉 洋 高畑 充希 三浦 春馬

監製 前田 裕 監修 松本 浩志

こんな夜更けにバナナかよ

渡辺 史

文春文庫

一方の鹿野さんもまた、少しも「不幸な人間」らしいところがなく、したたかにワガママに自己を主張する人だった。頼りないボランティアには「帰れ!」と一喝し、生活上の「あれしろ、これしろ」を容赦なく突きつける。彼の欲求は「普通に生きたい」という切実かつ正当な要求なのであり、その根底には、「障害者が介助者にもものを頼むのは当然の権利」という思いがある。ときに「弱者」であるはずの鹿野さんに押しつぶされるボランティアもいるなど、両者のやりとりは、鋭い対立や葛藤を生む。「愛」と「憎」がない交ぜになった濃密な人間関係がそこにはあった。

私は取材しながら、いったいどちらが「障害者」でどちらが「健常者」なのか、どちらが「支える側」でどちらが「支えられる側」なのかわからなくなることがしばしばだった。

(強調部は編集者が挿入)

編集後記

○バオバブネットワーク通信VOL20をお届けします。

松原バオバブの家30周年を記念して、2014年5月に復刊1号を発行してから20号になりました。通信発行計画して、関西障害者定期刊行物協会を訪問した時のことを思い出しています。新しい通信発行のために訪問したのですが、「休刊になっているので、新しい手続きはいりません!!」の回答に安心して帰ったことを覚えています。それから20号になりました。20回になっても、読者の皆様に満足いただける紙面になっていないことを編集責任者として反省しています。

○11月には、地域相談支援センター「いこな」の移転と女性ホーム増室事業が完了しました。女性ホームも10人定員となります。計画の大幅な見直しをしているのが車イスのメンバーに対応した男性ホームとショート新設事業です。12月の理事会・評議員会では、計画の大幅な見直し案と計画を練り上げるプロジェクトチーム結成が決定されました。建設資金の確保等様々な困難が予想されますが、支援者の「乗りかかった船に乗らな・・・」「何とかなるって・・・。」という明るい声で、私たちは前進してきました。

○「みんなで考えシリーズ」では、映画「こんな夜更けにバナナかよ」から、何を学ぶべきかをテーマに取り上げました。映画の原作者は北海道に拠点置くノンフィクション作家渡辺一史さんです。全身に筋力が徐々に衰えていく進行性筋ジストロフィの一の鹿野さん(故人)の生活とボランティアたちの交流、青い芝の会や札幌いちご会(小山内美智子代表)との共闘=自立生活運動等を描いた長編のノンフィクションです。障がい者の「自立の意味」を社会に問うた作品として、地域生活にこだわる私たちの間では評判の作品であり、一方で批判も多い作品でした。自立の意味を改めて問うことの必要を考えさせられました。私たちがめざす人間の自立の在り方や鹿野靖明の「自分のことを自分でできない生き方には尊厳がないのか?」への問いかけへの答えを見つけていただければと・・・。

○次号は、新ホーム建設事業の進展状況を皆様にお知らせしていきます。今後、更なるご支援ご協力をお願いいたします。

(文責F)

KSKQ (バオバブネットワーク通信VOL20) 2019年 2月 3日 発行

定価100円

編集人	社会福祉法人バオバブ福祉会	編集責任者	房本 晃
連絡先	〒580-0044 松原市田井城6丁目328番地2		
	でんわ072-332-0987 FAX072-331-8200		
発行人	関西障害者定期刊行物協会		
	〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階		
	でんわ&FAX06-6763-3338		

一九九一年九月三日

第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)

発行